

第3回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会

- 日時：平成23年3月4日（金）
午前10時から11時30分まで
- 場所：横浜市庁舎8階 8C会議室

■次 第■

1 開 会 (10:00~10:05)

健康福祉局福祉保健課長あいさつ

2 報 告 (10:05~10:10)

第2回分科会からのヒント集作成作業経過について<資料1>

3 議 事 (10:10~11:30)

(1) 「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」の内容、表現等について<資料2> (10:10~10:40)

(2) 様式案の見せ方について (10:40~11:10)

ア 「ヒント集 冊子 様式案」について<資料3> (10:40~10:55)

イ 「ヒント集 リーフレット 様式案」について<資料4> (10:55~11:10)

(3) ヒント集の活用について (案) <資料5> (11:10~11:30)

添付資料

(分科会資料)

- ・ (資料1) 第2回分科会からのヒント集作成作業経過について
- ・ (資料2) ヒント集 冊子 掲載内容一覧
- ・ (資料3) ヒント集 冊子 様式案
- ・ (資料4) ヒント集 リーフレット 様式案
- ・ (資料5) ヒント集の活用について (案)

別添資料

- ・ 第3回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会 議論のポイント
- ・ 「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」と「ヒント集 冊子 様式案」「ヒント集 リーフレット 様式案」の関係

第2回分科会からのヒント集作成作業経過について

1 全体の流れ

時 期	内 容
平成 22 年 12 月	第 2 回分科会 ・「幅広い人材を発掘・育成するためのヒント（中間案）」 提案
12～1 月	中間案に対する意見募集 (意見募集先：区事業企画担当、区社協、地域ケアプラザ、 分科会委員)
平成 23 年 1 月	意見集約 ※ 17 か所 (人) から 209 件のご意見をいただきました
1～2 月	ヒント集（冊子、リーフレット）案作成
3 月	第 3 回分科会

2 「幅広い人材を発掘・育成するためのヒント(中間案)」の主な意見と反映結果

意見を集約した結果を、次のとおりヒント集に反映しました。

主な意見	反映結果
○誰がどの立場でこのヒント集を活用するのかわかりにくく感じた（活動をしたいと思っている人を対象としたものなのか、新たな担い手の発掘・育成に悩んでいる方（既に活動している方）を対象としているのか。）。対象者を明確にすることが必要ではないか。	○対象者を、 <u>地域活動者（既に活動している方）</u> を中心とした内容に整理しました。
○具体的なヒントとはなっているが、例えば「参加者の主体性を大切にする」「やる気が高まるような工夫をする」というのは、具体的にどうアプローチしたらいいのかわからないのではないか。方法をイメージしづらいものについては、より具体的な事例を掲載するとわかりやすいのではないか。	○「解決に向けた具体的なヒント」とともにその「効果」を記載し、さらに具体的なイメージが持てるように、「解説・コラム等」を設けて、具体的な事例や手法を掲載しました。
○「ヒント」そのものが分かりづらい。実際に地域活動につなげるために活用するものであるなら、もう少し具体的な、「イメージできるもの」であったほうがよいのではないか。	

3 ヒント集(冊子、リーフレット)の作成

(1) 作成にあたってのポイント

ア 視点は、人材の発掘・育成

あくまでも「人材」というテーマからそれないように留意しました。

イ 具体的な事例の掲載

ヒントがイメージしやすくなるよう、解決に向けた具体的ヒント、効果、解説・コラムなどの具体的な事例を掲載しました。

(2) ヒント集 掲載内容の精査

ア 冊子

ヒント集を参考とする方の視点に立ち、よりわかりやすい内容とするために、中間案をベースにしながら、全ての具体的ヒントを再度精査し分類し直しました。

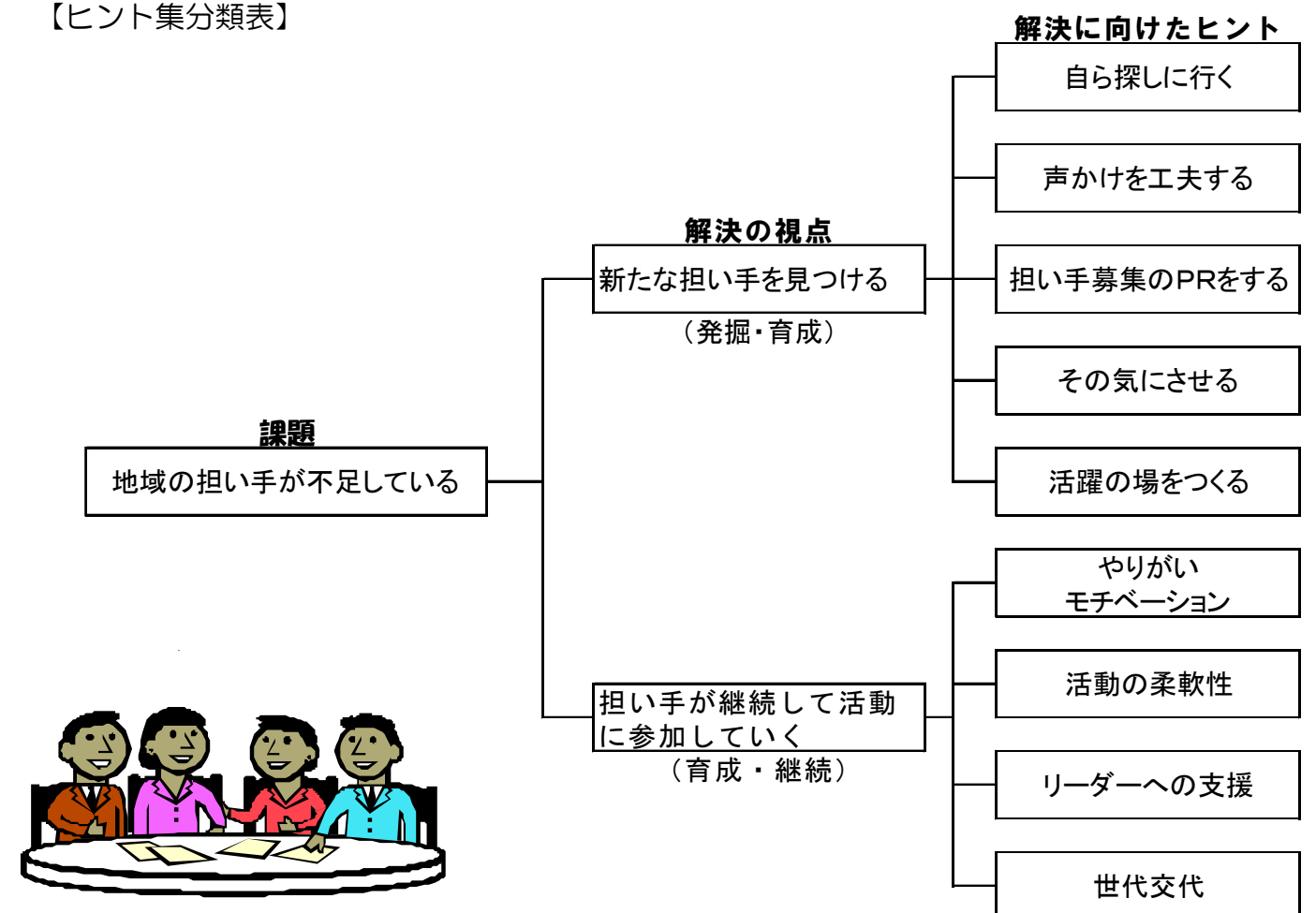
※ 右図【ヒント集分類表】参照。詳細は資料 2 参照。

イ リーフレット

ヒント集冊子に掲載する内容が概ね決まったところで、ポイントを抽出し、リーフレットへ掲載する内容を検討しました。

※ 資料 4 参照

【ヒント集分類表】



課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	【解説・コラム等】
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	①	自ら探しに行く	①日常生活で会う人やそのつてから、新たな仲間を見つける (PTA活動、カルチャーセンターなどのつながりを通じて)	①直接声かけをした人が仲間になってくれただけでなく、他のメンバーや知り合いにも声かけをしてきて、予想以上に新たな仲間が増えた(参加者が増え、広がりが生まれた)。	①:PTA活動やカルチャーセンター等、日常のつながりから、新たな仲間は見つかります PTA活動は自分の子どもに直接関係する活動であり、親の義務感が強く、共通点がある中での集まりなので、そのつながりは強固なものです。こういった日常的なつながりをきっかけとして誘い込むことで、一人だけでなく多数の人を引き込むことができる可能性があります。このような点を意識しながら、声かけをしてみてもいいでしょうか？
				②機会を見つけて、担い手となりうる方をヘッドハンティングする。 (研修や講座など同じ目的を持って参加している仲間が集まる機会、地域のイベントへの参加、自治会町内会活動への参加等を通じて)	②自分の目で見て自分から声をかけ、相手にも理解してもらった上でヘッドハンティングをした結果、積極的に参加してくれる方が増えた。	②:ヘッドハンティング 他の活動団体やメンバーの中でこの人に来てもらいたい、という人を見つけて声をかけていくことも一つの方法です。その人の性格や特徴を既によくわかっているし、自分の活動に参加してもらい上でも安心です。研修や講座、地域のイベント、自治会町内会活動など、自分と同じような活動をしている人と出会う機会は少なくないと思います。普段からそういった人たちと情報交換をすることで、活動にも広がりが出るのでないでしょうか？
				③自治会町内会の会長等地域のキーパーソンにお願いして、地域に活動を紹介し、認知してもらう	③地域のキーパーソンや地域から認知されている力は大きく、協力しようという方々が多数集まった。	③地域のキーパーソン 地域内の様々な団体の代表をしている人や、地域で活動をする上で中心を担っている人物のことを言います。具体的には、 ○自治会・町内会会長 ○地区社会福祉協議会会長 ○民生委員・児童委員 等が挙げられます。

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	【解説・コラム等】
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	②	声かけを工夫する	①活動に誘う際、参加者の関わりやメリットが具体的にイメージできるように説明する	①活動の条件、コンセプトに賛同してくれる人が集まり、継続した活動への参加につながった。参加することの利点を明確にすることで、それならば、と参加してくれる人も多かった。	
				②自治会町内会の会長等地域のキーパーソンから活動参加への声かけをしてもらう	②地域のキーパーソンが既に持っている幅広いネットワークを活用してくれて、様々な人が集まった。	
				③自治会町内会の会長等地域のキーパーソンを活動に巻き込む	③頼りにすることで積極的に参加してくれる人も多く、もともとの人材や情報のネットワークも活用してくれて、活動のプラスになる部分が多かった。	
				④担い手となりそうな人の情報をこまめにメモをし、その情報をもとに声をかける	④情報を細かくメモをしていたことで、その人の希望に合った活動につながられ、継続的な関わりを持てるようになった、	
				⑤活動団体の名称を親しみやすく、何をしている団体なのかわかるように工夫する	⑤以前の名称では反応が薄かったが、何をやっている団体なのかと興味を抱いてくれる人が多くなり、参加してもらえらるきっかけになった。	<p>⑥:活動団体の名称を工夫する</p> <p>『『老人クラブ』→『シニアクラブ』等、活動名称を変更して興味を喚起させる工夫をしている』(分科会委員より)</p> <p>「私の団体は、『マザークラブ』と名乗ってはいるが、ボランティアで毎日来てくれている男性もいる。男性が増えてきており、みな非常にいきいきと活動している。団体の名称については検討の余地があるかもしれない」(分科会委員より)</p> <p>目に入ってくる名前一つで、興味が湧くかどうかどうかも変わってきます。また逆に、何をしている団体か見ればわかるような名前にすることも工夫の一つでしょう。</p>
				<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">※「利用者」の表現は、読み手にとってわかりにくい。</div> <p>⑥活動の受け手(利用者)も将来の担い手になり得るので、そのような視点で利用者に声かけをしてみる</p>	⑦同じような立場の活動の受け手(利用者)の人たちを違う視点で見ることができ、世界が広がったと言ってもらえた。その担い手にとっても、自分の活動にとっても前向きな変化が生まれた。	<p>⑦:活動の受け手(利用者)も担い手になり得る</p> <p>「障害児を預かり、その間母親がヘルパーの資格を取得した。その後自分たちの活動を手伝ってもらった、『自分だけが不幸だと思っていたが、世界が広がった』と言って、喜んで手伝ってくれた。そのような、活動の受け手(利用者)が担い手になる場面を今まで何度も見てきた。活動の受け手(利用者)と担い手は別ではない。どちらにもなり得る」(分科会委員より)</p> <p>活動の内容や活動の受け手(利用者)の状態にもよりますが、受け手(利用者)は必ずしも受け手(利用者)という立場に留まりません。実は最も近いところに、活動の担い手は存在するかもしれません。</p>

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	【解説・コラム等】	
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	③	担い手募集のPRをする	①地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、地区センター等を活用または協力を得てPRする	①地域ケアプラザ等の支援機関から、様々な情報提供や相談支援が受けられ、活動を希望する方の紹介を受けることにつながった。 また、チラシを見て、興味がある、やってみたいという人が現れた。	①:地域の活動を支援する機関を活用する 地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、地区センター等、地域には地域活動を支援する機関が数多く存在します。何か活動をしたいと考えて訪れる人も少なくありません。そういった機関を活用し、また協力を得て活動のPRをすることで、新しい担い手が現れる可能性は高くなります。まずはご自分の地域の地域ケアプラザ等に相談してみたいかがでしょうか。きっと活動の手助けになるとと思います。	
				②コンビニに募集を掲示する	②様々な年齢層の人々からの問い合わせがあった。	①～⑤:地道な情報発信、PR 活動内容や活動報告を地域に発信することはとても重要です。すぐに反応が無くても、地域にこういった活動があると認知してもらうこと自体が、活動参加のきっかけになります。<解決に向けた具体的ヒント>にあるとおり、情報発信の方法は様々です。もしも自分たちの活動に対する地域の反応が薄いとお思いなら、今までとは違う情報発信の方法を実践することも必要です。	
				③口コミを行う	③話を聞いた相手が知人ということで、安心して参加してくれる人が多かった。		
				④チラシのポスティングを行う	④募集だけでなく、活動自体のPRもでき、認知度が上がった。		
				⑤具体的な活動内容を明示して、自治会町内会の協力を得て、チラシ、リーフレットの回覧等によりPRする	⑤活動内容がすでにある程度認知されていることにより、新しい参加者への説明がしやすくなった。		
				⑥活動情報を積極的に発信することにより理解者を増やし、あわせて募集のPRをする	⑥活動情報を見て、面白そうだと興味を持ってくれる人が現れた。		
					⑦様々な媒体を活用する(ブログ、ホームページなど)	⑦今まで地域とかかわりが薄かった方、接点がなかった方からの反応があり、新たな人材の発掘につながった。	
					①「ありがとう」「助かった」など感謝の気持ちを伝える	①あまり参加に積極的ではなかった方でも、感謝を言葉で伝えるととても嬉しそうにしてくれた。活動に貢献できた、喜んでくれた、と実感してもらえた。	①②:活動後の振り返りを大切に 活動の受け手(利用者)のニーズがあり、それに対応しているという、何かしらの実感が持てるから続けられていると思う。(NPO法人 あいあいヒアリングより)
					②ともに活動したことの意味や成果を言葉で表し、ともに思いを共有する	②自分が参加したことでの成果ややりがいを実感することにつながった。	成果ややりがいを実感できるかどうかは、活動を継続する上でとても重要なことです。感謝の気持ちを直接伝えたり、活動の振り返りを一緒にすることで、やりがいを実感できる場面を多くつくれるよう心がけてはいかがでしょうか。
					④	その気にさせる	

下記「やりがいモチベーション」の①②と具体的ヒントが同じ内容になります。(効果は異なります)

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	【解説・コラム等】
地域の担い手が不足している	新たな担い手を見つける	⑤	活躍の場をつくる	①事前に一人ひとりの得意分野や経験を聞き取り、活動に活かせる場や機会につなげる	①適材適所での活動参加に結び付けることにより、継続した参加につながり、また活動参加を通じて、新たな役割を見出すきっかけにもつながった	①特技や経験を活かしてもらう その人の特技や、これまでの人生で培ってきた技術や知識は活動団体にとって重要な財産です。ご自分の団体の中でこのような活動者の財産を活かしてもらえる場がないか考え、活動者にとっても、ご自分の団体にとっても相乗効果となるような体制づくりを心がけてはいかがでしょうか。
				②「スター誕生方式」・・・まず参加者が格好良く見える場面(スターとなれる場面)での協力をお願いします。	②参加した方の子どもが、活躍する場を見て喜んでくれて、参加者自身も嬉しそうだった。そういったことがきっかけとなって、活動に関わろうと思う方も出てきた。	②スター誕生方式 仕事をしている子育て中の年代の人々にとって、最初から活動全てに参加してくれというのは負担が大きいものです。例えばもちつき大会のもちつきの場面とか、子どもにとって親が格好良く見える場面だけをまずお願いしてみるのはいかがでしょうか。子どもが喜ぶのであれば、と参加してくれる親は多いと思います。
				③お祭りや福祉教育で男性の力を活かした場をつくる	③力仕事等、男性のほうが適している仕事もあり、責任感とリーダーシップを持って参加してくれた。	③男性の参加 一般的に、地域活動に男性を引き込むことについては難しいと思われがちです。しかし、明確に役割や責任を与えた上で協力をお願いしますと、リーダーシップをとって積極的に関わってくれる男性も多いようです。依頼の仕方によっては、大きな力になると思います。
				④参加しやすい雰囲気づくりを仲間とともに話し合う	④活動者一人一人が活動団体の雰囲気や、新しい参加者への受け入れ体制について考えてくれて、実際に団体内に良い雰囲気が広がった。	

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	【解説・コラム等】
地域の担い手が不足している	担い手が継続して活動に参加していく	④	やりがいモチベーション	①「ありがとう」「助かった」など感謝の気持ちを伝える	①感謝の気持ちによって、自分の参加が必要だと実感してくれる人が多く、継続して活動をしていくモチベーションにつながった。	①感謝の気持ちを伝える やりがいや、自分が参加したことでの影響が実感できるから活動を続けているという人は少なくないようです。タイミングを見計らいながら、その人が活動に参加していることを実感できるように心がけましょう。
				②ともに活動したことの意味や成果を言葉で表し、ともに思いを共有する	②活動を通して感じたことを発信する場があり、息抜きや次回参加へのきっかけにつながり、継続的に参加をしてくれるようになった。	②思いを受け止め、お互いを理解する 担い手は、活動を通じて感じたことがたくさんあるはず。これが楽しかったとか、あるいはこれが上手いかなかった、楽しくなかった等の不満もあるはず。そういった思いを、しっかり受け止めて、お互いを理解していくことが大切です。担い手本人の負担の軽減にもなりますし、よりよい活動を行う上での参考にもなるはず。
				③頼りにする	③自分を認識してくれたことや、やりがいを実感でき、担い手の活動継続のモチベーションが高まった。	
				④学びの場を設ける	④学習したことを活かす場が欲しくなり、活動や活動内容の検討にも積極的になってくれた。	
				⑤担い手の地域に対する思いを尊重する	⑤地域をこうしたい、という思いをよく話してくれるようになり、その思いが活動の継続につながった。	
				⑥地域の課題に気づき、活動の意義・意味を実感できるようにする(アンケート、まち歩きなど)	⑥活動の意義・意味を認識することでやりがいを感じ、継続的な活動参加につながった。	
				⑦節目ごとに仲間うちで表彰する	⑦自分のこれまでの努力や成果が実感できることで、楽しさや達成感が生まれた。	⑨活動参加〇〇周年表彰 「担い手が活動に参加して何か月、何年等の節目に、表彰を行うようにしている。普段どういったことを頑張っているか等を褒め称え、しっかり見ていることをアピールするようにしている。普段からその人を見ていないとできないことであり、担い手にとっても励みになる」(分科会委員より)
				⑧タウンニュースや新聞などで活動を紹介する	⑧ ⑦とほぼ同じ	⑩成果が目に見えるように 自分たちがやっていることが具体的に紙面等で表されることでの喜びは大きいものです。それらを見ることで活動に参加する楽しみが増え、励みにもつながります。
				⑨楽しい雰囲気づくりをする(悪口がない雰囲気づくり)(←雰囲気づくりは柔軟性のところ?)	⑨担い手同士が協力しながら継続して活動に参加していくことにつながった。	⑨団体の雰囲気づくり 否定的な意見ばかりが出るような雰囲気では、担い手の自主性や継続性は育ちません。担い手の人格や意見を尊重し、積極的に楽しみながらできる雰囲気作りが大切です。

上記「その気にさせる」の①②と具体的ヒントが同じ内容になります。(効果は異なります)

課題	解決の視点	リーフレット用分類	解決に向けたヒント	<解決に向けた具体的ヒント>	<効果>	【解説・コラム等】
地域の担い手が不足している	担い手が継続して活動に参加していく	⑥ (その他)	活動の柔軟性	①活動内容を固定化せず、自由さや柔軟性をもたせる	①担い手の精神的負担が少なく、気楽に継続的に参加できるようになった。	
			活動の柔軟性	②活動に完璧さを求めるのではなく、活動しながら担い手とよりよい方法を考えていく	②担い手との意思疎通もでき、合意形成をしながらより継続性の高い活動実施につながった。	②担い手とのコミュニケーション 定例会等、メンバー全体で報告や意思疎通を図る場を設けることは非常に重要です。メンバーと話しながら、よりよい形に活動形態を変えていくことも、活動を継続する上では必要です。
			リーダーへの支援	①リーダーを支える仲間をつくる、育てる	①リーダー自身の負担が減り、担い手も「リーダーを支える役割」を認識し、それによって次のリーダー育成にもつながった。	①リーダーを支える仲間をつくる 活動の規模が大きくなってくると、リーダー1人での管理が難しい場合があります。管理面において、大きな役割を安心して任せられる仲間を、日頃から意識しながら育てていくことも重要です。
			リーダーへの支援	②地域ケアプラザ、ボランティアセンター、区民活動支援センター、地区センター等から相談支援等を行う	②担い手の活動継続に向けた様々な相談支援が受けられた。	
			世代交代	①任期等を決め、リーダーや担い手の世代交代をルール化する	①ルール化により、リーダーは、次のリーダーの育成も視野に入れながら活動を進めるとともに、各々の担い手は、自然な流れで世代交代を意識して、新たな担い手の発掘と育成に取り組むことにつながった。	①世代交代のルール化 75歳までは自治会以外の活動にも参加してもらい、75歳を過ぎたら自治会内でのボランティア活動のみをお願いする等、活動に年齢制限を設けている団体もあります。思い切った方法ではありませんが、交代のルールが明確であることは、継続して担い手が参加する1つの方法かもしれません。

地域活動者に耳より情報!

資料3

**新たな担い手
を見つける!**

**担い手が継続して
活動に参加していく!**

ヒント集

(冊子案)

※デザインは調整中、リーフレットのキャッチ
コピー（文言）との調整必要

平成23年〇月

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会

横浜市健康福祉局福祉保健課／横浜市社会福祉協議会

目次

1 新たな担い手を見つける、その担い手が継続して活動に参加し

ていくためのヒント

(1) 新たな担い手を見つける

- ア 自ら探しに行く・・・・・・・・・・・・・・・・
- イ 声かけを工夫する・・・・・・・・・・・・・・・・
- ウ 担い手募集のPRをする・・・・・・・・・・・・・・・・
- エ その気にさせる・・・・・・・・・・・・・・・・
- オ 活躍の場をつくる・・・・・・・・・・・・・・・・

(2) 担い手が継続して活動に参加していく

- ア やりがい モチベーション・・・・・・・・・・・・・・・・
- イ 活動の柔軟性・・・・・・・・・・・・・・・・
- ウ リーダーへの支援・・・・・・・・・・・・・・・・
- エ 世代交代・・・・・・・・・・・・・・・・

2 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・

- ア 支援制度（助成金など）の紹介、相談先等（今後作成予定）
- イ ヒアリング先一覧表、参考資料（既存の冊子等）
- ウ ヒント集作成までの検討経過（今後作成予定）

はじめに ～このヒント集のコンセプト～

地域では、自治会町内会、ボランティア団体等によって、さまざまな活動が実施されていますが、活動を支える担い手の不足、後継者の育成といったものが、活動されている方の悩みとしてあげられます。具体的には、新しい担い手をどのように見つけていくか、活動参加のきっかけをどのようにつくっていくか、また、活動に継続して参加してもらい、活動を継続・発展させていくためにはどうしていけばいいか、といったことがあげられると思います。

一方で、“何かをしたい、地域の役に立ちたい、自分のできることは何か”といった思いを持っている方はたくさんいます。

そこで、その方々の思いや意欲を大切にしながら、地域活動参加へのきっかけづくりや、継続的な参加につながっていくようにしていくためには、どのようにしたらよいかということ、さまざまな事例や活動者からのヒアリングを基にし、悩みを抱える方の視点にたってこのヒント集にまとめました。

また、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会（区ボランティアセンター）、区民活動支援センター等の活動を支援するみなさまにとっても、地域活動をしている方からの相談に対する支援方法を考える際の参考となるよう作成しています。

このヒント集がきっかけとなり、多くの方が地域活動に参加し、さまざまな活動が生まれ、続いていき、誰もがいきいきと暮らしている地域づくりにつながっていくことを願っています。

**1 新たな担い手を見つける、
その担い手が継続して活動に参加していくためのヒント**

構成は、

○新たな担い手を見つける

○その担い手が継続して活動に参加していく

} ためのヒント



解決に向けた具体的ヒント、効果等

からなっています。

解決の
視点

解決に向けた
ヒント!

新たな
担い手を
見つける

その
ためには、

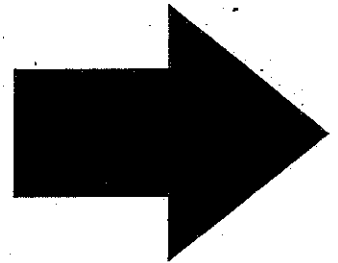
自ら探しに行く

<解決に向けた具体的ヒント>

①日常生活で出会う人やそのつてから、新たな仲間を見つける
(PTA活動、カルチャーセンターなどのつながりを通じて)

②機会を見つけて、担い手となりうる方をヘッドハンティングする
(研修や講座など同じ目的を持って参加している仲間が集まる機会、地域のイベントへの参加、自治会町内会活動への参加等を通じて)

③自治会町内会の会長等地域のキーパーソンにお願いして、地域に活動を紹介し、認知してもらう



【解説・コラム等】

①：PTA活動やカルチャーセンター等、
日常のつながりから、新たな仲間は見つかります

PTA活動は自分の子どもに直接関係する活動であり、親の義務感が強く、共通点がある中での集まりなので、そのつながりは強固なものです。

こういった日常的なつながりをきっかけとして誘い込むことで、一人だけでなく多数の人を引き込むことができる可能性があります。

このような点を意識しながら、声かけをしてみてくださいか？

必要に応じて、
「用語の解説」や、
イラスト等を載せます。

<効果>

①直接声かけをした人が仲間になってくれただけでなく、他のメンバーや知り合いにも声かけをしてくれて、予想以上に新たな仲間が増えた(参加者が増え、広がりが生まれた)

②自分の目で見えて自分から声をかけ、相手にも理解してもらった上でヘッドハンティングをした結果、積極的に参加してくれる方が増えた

③地域のキーパーソンや地域から認知されている力は大きく、協力しようという方々が多数集まった

③地域のキーパーソンとは？

地域内の様々な団体の代表をしている人や、地域で活動をする上で中心を担っている人物のことを言います。

具体的には、
○自治会・町内会会長
○地区社会福祉協議会会長
○民生委員・児童委員

等が挙げられます。

【解説・コラム等】

②：ヘッドハンティング

他の活動団体やメンバーの中でこの人に来てもらいたい、という人を見つけて声をかけていくことも一つの方法です。その人の性格や特徴を既によくわかっているし、自分の活動に参加してもらう上でも安心です。

研修や講座、地域のイベント、自治会町内会活動など、自分と同じような活動をしている人と出会う機会は少なくないと思います。

普段からそういった人たちと情報交換をすることで、活動にも広がりが出るのではないのでしょうか？

2 參考資料

ヒアリング先一覧表

ヒアリング対象(団体)	活動拠点区	分野	紹介者 (敬称略)
仲手原マザークラブ	港北区	自治会活動(町内会婦人部)	井上 禮子
湘南桂台地区	栄区	老人会、自治会活動	竹谷 康生
NPO法人 あいあい	港北区	障害児親子・兄弟の支援(託児等)	斉藤 保
泉区下和泉住宅自治会	泉区	自治会活動(送迎等)	打合せの場で 案として出る
家庭教育学級ばんぶきん運営委員会(NPO法人 横浜市民アクト)	磯子区	子育て	吉弘 初枝
さわやか港南	港南区	高齢者の在宅支援、託児の子育て支援等有償サービス、 青年学級、障害者・高齢者の地域の居場所等	黒津 貴聖
「脳イキイキ教室」サポーターの会	中区	高齢者	柴田 真紀
NPO法人 5つのパン	都筑区	精神障害者ホームヘルプ事業、地域活動支援センター事業 (コミュニティカフェ)	斉藤 保
ヒアリング対象(分科会委員) (敬称略)	活動拠点区	所属	
斉藤 保	港南区	㈱イータウン、港南タウンカフェ	
柴田 真紀	中区	本牧原地域ケアプラザ地域活動交流事業コーディネーター	
白岩 正明	旭区	旭区若葉台地区社協会長	
中野 じずよ	瀬谷区	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま理事長	
山田 美智子	西区	よこはま一万人子育てフォーラム	

※参考資料(既存の冊子等)

既存の冊子(事例集等)	発行元
国民生活白書	内閣府
ふれあいの居場所ーガイドブッケー	公益財団法人さわやか福祉財団
新しい風をつくる地縁型組織とテーマ型組織の 協働ヒント集	市民セクターよこはま・横浜市健康福祉局福祉保健課
サロン活動ヒント集	南区社会福祉協議会
人がつながり地域が活きる 横浜市地域ケアプ ラザ地域活動交流事例集	市民セクターよこはま・横浜市健康福祉局福祉保健課

新たな担い手
を見つける！

担い手が継続して
活動に参加していく！

ヒント集

地域で活動をする上で、どうしたら新しい人に参加してもらえるか、どうしたら参加している人に活動を続けてもらえるか、といったことについてお悩みではありませんか？
そういったお悩みについて、ちょっとした参考となるヒントを、簡単にまとめました。

第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会

事務局

横浜市健康福祉局福祉保健課

〒231-0017

横浜市中区港町1-1

TEL：045-671-3567 FAX：045-664-3622

URL：<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/keikaku/>

横浜市社会福祉協議会

〒231-8482

横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター8階

TEL：045-201-8616 FAX：045-201-1620

URL：〇〇

◆地域での活動を支援する機関について◆

地域には、市民のみなさまの地域活動を支援する、さまざまな相談支援機関があります。これから何か活動を始めようと思っている方、現在の活動について困りごとがある方など、一度相談をしてみたいかがでしょうか。

今まで知り得なかった情報、仲間を増やしていくためのヒントや、違った視点での助言など、今後の活動に役立つ情報や支援が受けられます。

◆横浜市ボランティアセンター

ボランティアセンターでは、ボランティアを必要としている人やボランティア活動をしたい人をつなげたり、ボランティア情報の提供や相談支援等を行っています。

また、各区にあるボランティアセンター等とも連携して、ご相談に対応しています。

〒231-8482

神奈川県横浜市中区桜木町1-1

(横浜市健康福祉総合センター8F)

TEL：(045) 201-8620 FAX：(045) 201-1620

URL：<http://www.yokohamashakyo.jp/yvc/top.html>

◆地域ケアプラザ(横浜市内に123か所)(平成23年5月時点)

身近な地域の福祉・保健活動の拠点として、施設をご利用いただけます。

また、子育てサロンや健康体操教室など、地域のみなさんが参加できる事業を行っています。

さらに、ボランティアや地域の活動の情報や相談支援等を行っています。

各区の地域ケアプラザの所在地、連絡先等については、

URL：

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/shisetsu-joho/careplaza.html>

◆横浜市市民活動支援センター

NPO やボランティア団体などによる、公益的な市民活動を総合的に支援している拠点です。

さまざまな分野の市民活動団体や、ボランティアなど、すでに活動している人たちや、これから活動しようとしている人たちに応援しています。

また、各区にある区民活動支援センター等とも連携して、ご相談に対応しています。

〒231-0062

横浜市中区桜木町1-1-56

みなとみらい21クリーンセンタービル4・5階

TEL：045-223-2666 FAX：045-223-2888

URL：<https://opencity.jp/yokohama/>

※先進的事例・解説・コラム等

※先進的事例・解説・コラム等

①自ら探しに行く

新たな仲間を見つけるために、普段どのような工夫をされていますか？
日常の活動や生活の中で、仲間を増やす機会は意外と多くあります。実践してみてはいかがでしょうか？

◆PTA 活動やカルチャーセンター等

日常のつながりの中で、新たな仲間を探してみる。

◆活動に関する研修や講座、地域イベント等

同じ目的を持って参加している他団体のメンバーの中から、自分の活動にも参加してもらいたいと思う人に声をかけてみる。

◆地域のキーパーソンに活動を紹介してもらう

地域内で既にネットワークを持っている人たちに、活動の紹介をしてもらう。

※イラストとか？

いわゆるヘッドハンティングです！

※自治会・町内会長、地区社会協議会会長、民生委員・児童委員等が挙げられます。

②声かけを工夫する

導入文

ヒント

ヒント

ヒント

※①のように、項目を埋めていくイメージ

解説・効果等

解説・効果等

④その気にさせる、やりがい・モチベーション

⑤活躍の場をつくる

⑥その他

別添「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」の内容が確定した段階で、こちらの様式に文章を落とし込み、再度委員の皆様にも内容をご確認いただく予定です。

ヒント集の活用について（案）

1 基本的な考え方

- (1) 作成したヒント集を、ただの成果物として関係機関への配布で終わりとはしない。
- (2) ヒント集を、活動者の悩みの解決に向けた重要なツールとして、継続して活用する。
※ 活動者に情報提供し活動の参考にしてもらう、活動者を支援する立場の区ボランティアセンター、区民活動支援センター、地域ケアプラザ等において、相談支援を行う際に活用するなど。

2 活用に向けた取組

ヒント集を実際に、地域活動者に活用していただくために、

(1) 活動者向けに

活動者が参加する既存の会議、研修等の機会を活用して、ヒント集の活用についての説明を行う。

例：区社協関係の地区社協分科会、ボランティア連絡会及び市民児協等の時間を使って説明を行う。

(2) 支援者向けに

相談支援機関である、区ボランティアセンター（福祉保健活動拠点）、地域ケアプラザ、区民活動支援センター、地区センター、コミュニティハウス等での相談支援に活用していただくために、相談支援機関向けにヒント集の活用についての説明を行う。

例：区関係課長会、係長会、区社協事務局長会、地域ケアプラザ全体所長会、地域ケアプラザ地域交流研究会、その他相談支援機関を対象とした研修会等の時間を使って説明を行う。

3 活用に向けたアイデア

- 分科会の委員が講師になって、実例を踏まえた研修や説明を実施

※ 委員のみなさんも、是非、人材の発掘・育成に向けたヒント集活用に向けた取組（営業活動）に参画しませんか？

4 今後のスケジュール

日程	内容	具体的内容
3月29日まで	ヒント集（冊子、リーフレット）最終調整	分科会委員の皆様へ別途確認依頼を行います。
3月29日（火）	市計画策定・推進委員会	ヒント集（冊子、リーフレット）承認
4月～5月	冊子、リーフレット印刷発注	
5月以降	活用のための説明実施	関係課長会、係長会、区社協事務局長会議等で説明

